

高知工業高等専門学校		開講年度	令和02年度 (2020年度)	授業科目	心理学
科目基礎情報					
科目番号	1485	科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義	単位の種別と単位数	履修単位: 1		
開設学科	総合科学科	対象学年	4		
開設期	後期	週時間数	2		
教科書/教材	参考書: 齊藤勇編『図説心理学入門[第2版]』(誠信書房)、Atkinson & Hilgard's Introduction to Psychology, 16e, Cengage Learning、西村義樹&野矢茂樹『言語学の教室』(中公新書)、茂木健一郎『クオリア入門』(ちくま学芸文庫)。必要に応じて資料を配布する。				
担当教員	佐々木 昌太郎				
到達目標					
1. 心理学各分野の基礎に触れる。 2. 日常生活に潜む問題に自分で気づき、考えるという力を身につける。					
ルーブリック					
	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安		
心理学の考え方	心理学の考え方を理解できる。	心理学の考え方を少なからず理解できる。	心理学の考え方が理解できない。		
心理学が明らかにしたメカニズム	心理学が明らかにしてきたところ>のメカニズム、およびその方法について、理解できる。	心理学が明らかにしてきたところ>のメカニズム、およびその方法について、ある程度理解できる。	心理学が明らかにしてきたところ>のメカニズム、およびその方法が、理解できない。		
実際に使われている心理学	実際に使われている心理学を指摘でき、改善を提案することができる。	実際に使われている心理学に気づくことができる。	心理学の知見が応用されていることがわからない。		
学科の到達目標項目との関係					
学習・教育到達度目標【建設工学教育プログラム】(A) JABEE (E) JABEE 基準1(2)【建設工学教育プログラム】(b)					
教育方法等					
概要	本講義では、認知心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学といったさまざまな心理学の分野を概観する。また英語をはじめとした言葉に、モノや出来事に対する人の認知がどのように反映されているのかを学び考えることで、心理学から影響を受けた分野である認知言語学についても学ぶ。最終的には、エンジニアとして、将来的な工学と人間のこころのつながりについても考える。				
授業の進め方・方法	講義形式にて各分野の知見を提供する。 学生諸君の積極的な参加を要求する。 なお、学生諸君の興味関心、進捗等に応じて、授業の進め方が変更される可能性がある。				
注意点	関係のないことをする、話す、寝る、といった行為には、授業に参加する意思がない、と判断し、厳正に対処する。 試験の成績80%、平素の学習状況(毎回のレポート等)20%、以上の割合で総合的に評価する。				
授業計画					
		週	授業内容	週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	オリエンテーション 心理学入門	心理学がどのような学問かを理解し、各分野の目的を知る。	
		2週	知覚と認知①	認知心理学の知見を得る。	
		3週	知覚と認知②	認知心理学の知見を得る。	
		4週	知覚と認知③	認知心理学の知見を得る。	
		5週	こころと言葉①	人のこころがどのように言葉に反映されているのかを学ぶ。	
		6週	こころと言葉②	人のこころがどのように言葉に反映されているのかを学び、考える。	
		7週	こころと言葉③	人のこころがどのように言葉に反映されているのかを学び、考え、発信する。	
		8週	脳と生理心理学①	心理学の視点から、脳や生理データについて考えることができる。	
	4thQ	9週	脳と生理心理学②	心理学の視点から、脳や生理データについて考えることができる。	
		10週	心理学と認知言語学	心理学と認知言語学について学ぶ。	
		11週	英語話者と日本語話者のこころ①	英語話者と日本語話者の出来事の捉え方の違いを学び、両者のこころの違いを捉える。	
		12週	英語話者と日本語話者のこころ②	英語話者と日本語話者の出来事の捉え方の違いを考える。	
		13週	メタファーとメトニミー	メタファーとメトニミーについて学び、日常的にどのような例があるかを考える。	
		14週	工学と人のこころ①	これまで学んできた人のこころと自身の専門である工学とのつながりを考える。	
		15週	工学と人のこころ②	これまで学んできた人のこころと自身の専門である工学とのつながりを考える。	
		16週	後学期末試験		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週

基礎的能力	人文・社会科学	社会	公民的分野	人間の生涯における青年期の意義と自己形成の課題を理解し、これまでの哲学者や先人の考え方を手掛かりにして、自己の生き方および他者と共に生きていくことの重要性について考察できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				自己が主体的に参画していく社会について、基本的人権や民主主義などの基本原理を理解し、基礎的な政治・法・経済のしくみを説明できる。	2	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
			現代社会の考察	現代社会の特質や課題に関する適切な主題を設定させ、資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について人文・社会科学の観点から展望できる。	3	後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
	工学基礎	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史	説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。	2	
				情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権などの法律について説明できる。	2	
				高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを説明できる。	3	

評価割合

	試験	発表	相互評価	平素の学修状況	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	20	0	0	100
基礎的能力	50	0	0	10	0	0	60
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	30	0	0	10	0	0	40